



全日本大学野球選手権での活躍を誓う、新沼館貴志監督（前列左から2人目）ら  
八戸学院大硬式野球部

来月10日から全日本大学野球

# 八学大ナインら闘志

## 八戸

# 「八戸のプライド持ち戦う」

八戸学院大硬式野球部が北東北大学野球春季リーグ1部で優勝し、第73回全日本大学野球選手権（6月10、16日・明治神宮球場ほか）に出場する。同選手権には5年ぶり9度目の出場。今年1月に就任した、新沼館貴志監督（42）体制では初となる。小林日出主将（4年、三塁手）は「八戸のプライドを持って戦う」と闘志を燃やす。

4、5月に東北各地で行われたリーグ戦には6チームが出場し、総当たりの2回戦を行った。同部は開幕から8連勝し、最終戦を待たず優勝が決定。最終週は富士大に2連敗したが、8勝2敗で昨秋から2季連続、春秋通じて17度目の頂点に立った。

最優秀選手賞に畠山宗選手（4年、捕手）が選ばれ、ベストナインにも3選手が名を連ねた。23日、同部の選手らが八戸市庁を訪れ、熊谷雄一市長に大舞台への意気込みを語った。同部は過去2度、ベスト4の経験がある。熊谷市長は「これまでの最高成績である、ベスト4以上を目指して頑張ってほしい」と激励した。小林主将によると、投手陣の粘りと大事な場面で打てる長打力がチームの強み。新沼館監督は「八学大を選んでくれた選手を東京の舞台で暴れさせた」と力を込めた。

選手権には全国27チームが出場。同部の初戦は大会3日目の12日。2回戦で天理大（阪神連盟）―北海道連盟代表の勝者と戦う。

（磯野雄太郎）